

狂言か奇蹟か 信仰か権力か

『エル ELLE』の次にヴァーホーベンが題材に選んだのは17世紀に実在した修道女の裁判記録。幼い頃からキリストのビジョンを見続け、聖痕や奇蹟を起し民衆から崇められた一方、同性愛の罪で裁判にかけられたベネデッタ・カルリーニ。男性が支配する時代に権力を手にした彼女がおこした奇蹟は本物か、はたまた狂言か。彼女に翻弄される人々を描いた**奇想天外セクシュアル・サスペンスが完成した。**

主演は『エル ELLE』にも出演しているヴィルジニー・エフィラ。更に世界的大女優シャーロット・ランブリングがベネデッタに疑惑の目を向ける修道院長を演じ「この映画に出演しない理由が見当たらない」と出演理由を述べている。

BENEDETTA

カンヌ国際映画祭騒然！




暴力と、セックスと、教会の欺瞞を挑発的に描く

ポール・ヴァーホーベン監督最新作

MESSAGE

メッセージ: ポール・ヴァーホーベン監督

ベネデッタの物語の独特な性質に惹かれたんだ。17世紀初めに修道女の同性愛についての裁判があったこと、裁判の記録や本書のセクシュアリティの描写がとても詳細なことに感銘を受けた。そして、完全に男が支配するこの時代に、才能、幻視、狂言、嘘、創造性で登り詰め、本物の権力を手にした女性がいたという点だ。私の映画の多くは女性が中心にいる。つまり、ベネデッタは『氷の微笑』『ショーガール』『ブラックブック』『エル ELLE』のヒロインたちの親戚というわけさ。

[@KlockworxInfo](http://klockworx-v.com/benedetta)   

STORY

17世紀イタリア。幼い頃から聖母マリアと対話し奇蹟を起こす少女とされていたベネデッタは6歳で修道院に入る。純粋無垢なまま成人したベネデッタは、ある日修道院に逃げ込んできた若い女性を助ける。様々な心情が絡み合い2人は秘密の関係を深めるが、同時期にベネデッタが聖痕を受け、イエスに娶られたとみなされ新しい修道院長に就任したことで周囲に波紋が広がる。民衆には聖女と崇められ権力を手にしたベネデッタだったが、彼女に疑惑と嫉妬の目を向けた修道女の身に耐えがたい悲劇が起る。そして、ベスト流行にベネデッタを糾弾する教皇大使の来訪が重なり、町全体に更なる混乱と騒動が降りかかろうとしていた…。

監督: ポール・ヴァーホーベン 脚本: デヴィッド・マーク、ポール・ヴァーホーベン

原案: ジュリアス・C・ブラウン「ルネサンス修道女物語—聖と性のミクロストリア」

出演: ヴィルジニー・エフィラ、シャーロット・ランブリング、ダフネ・パタキア

ランベール・ウィルソン、オリヴィエ・アブラマン

2021/フランス・オランダ/131分/R18+/原題: BENEDETTA/字幕翻訳: 横井 和子

配給: クロックワークス

©2020 SBS PRODUCTIONS - PATHÉ FILMS - FRANCE 2 CINÉMA - FRANCE 3 CINÉMA



2/17(金) ロードショー

JR 新宿駅中央東口 徒歩2分 武蔵野ビル3F
新宿 武蔵野館
03 (3354) 5670 shinjuku.musashino-k.jp

有楽町イトシア イトシアプラザ4F
〒テアトルシネマグループ
ヒューマントラストシネマ有楽町
03 (6259) 8608 ttcg.jp

明治通り沿い 地下鉄B1 出口正面 コチビル 8F
〒テアトルシネマグループ
ヒューマントラストシネマ渋谷
03 (5468) 5551 ttcg.jp